

Funehiki High School News vol.100

◆進路近況報告 第 1 弾

11月2日現在、本校3年生の就職内定率は83.1%に達しました。進学は、今が推薦入試の真最中です。今回は、日本郵政株式会社に内定した齋藤千穂さんと、郡山女子大学 家政学部 食物栄養学科に合格した吉田萌さんの声を紹介します。

Q. 日本郵政株式会社に就職したいと思ったきっかけは？

A. お世話になった地域の方々に恩返しできる仕事がしたいと思い、地域に根づき、密にかかわることができる職場を希望しました。



齋藤 千穂 さん

Q. 就職試験に向けてどのような勉強をしましたか？

A. 問題冊子を繰り返し勉強し、分からないところは先生に教えていただきました。

Q. 将来の抱負を聞かせて下さい。

A. 今までお世話になってきた地元で、地域に根づいて一生懸命働き、恩返しができるように頑張っていきたいと思います。

Q. 食物栄養学科を志願したきっかけは？

A. 祖父が病気で入院していた頃、病院のご飯を嬉しそうに食べている姿を見て、目指すようになりました。



吉田 萌 さん

Q. 進学に向けてどのような勉強をしましたか？

A. 人体の構造や化学反応式など生物と化学の基礎や、濃度の計算などを重点的に勉強しました。

Q. 将来の夢を聞かせてください。

A. 病院で働き、患者さん一人一人の声を傾け、1人でも多くの方が笑顔になるように仕事をしていくことです。

◆体育祭が行われました



10月29日と30日、体育祭が開かれ、29日にはバスケットボール、卓球、バドミントン、サッカーが、30日には綱引き、三人四脚、玉入れ、長縄跳び、8×100mリレーが行われました。クラスが一致団結して競う姿はとてさわやかで、生徒だけでなく教師も含め、船高の全員がスポーツの秋を満喫していたようです。



◆福島大学出前講座

11月4日、福島大学出前講座を行い、福島大学行政政策学類の今西一男教授に「震災復興の都市計画」をテーマに講義をしていただきました。1年生の進学コースの希望者、2年生の特別進学クラスの生徒と希望者が聴講し、どの生徒もメモを取りながら熱心に学んでいました。



◆遠足に行ってきました

1年生は10月20日に裏磐梯五色沼方面へ、3年生は10月23日に那須ハイランドパークへ、遠足に行ってきました。1年生は五色沼を散策し、バーベキューを楽しみました。3年生はジェットコースターなど乗り物に乗ったり、パーク内を散策したりしました。両日とも天候に恵まれ、生徒は豊かな秋を感じていたようです。



“魔法のような”季節

Colin Dunn

コリン・ダンさん
(アメリカ合衆国
ニューハンプシャー州出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	30

木々が紅葉し、空気がひんやりしてくると、僕は毎年、大好きな祝日——クリスマスが訪れるのを楽しみに待ちます。どうしてこんなにクリスマスが大好きなのでしょう？ プレゼントを贈ったりもらったりすることはもちろん、美味しい食べ物や飲み物が用意された豪華な食事をする、家族が集まること、イエス様の誕生日をお祝いするために教会で素晴らしい時間を過ごすこと、すべてが大好きな理由です。

子どもの頃のクリスマスの思い出を1つ。僕たちは教会の人たちと一緒に、クリスマス・キャロルを歌うため、街へ出かけていきました。大勢で一緒に近所を歩き回り、その地域の家々で歌いました。クリスマス・クッキーが詰まった袋を家族ごとに手渡して、クリスマス・イブのお祝いに教会へ招待します。毎年その日はとても寒くて大変でしたが、クリスマスの季節を感じる幸福感とともに、大切なイエス様の誕生の祝祭日を広める素晴らしい方法だと思います。

クリスマスの思い出と共に頭に浮かぶ言葉は、“魔法のような”です。

アメリカでは、多くの人々にとって、クリスマスは1日で終わりません。12月中ずっと、あるいはもっと早くから、クリスマスの喜びを感じながら、その日を待ち続けるのです。僕にとっても、最も記憶に残っているクリスマスの思い出は、当日だけではなく、12月25日までの毎日のことでした。収穫感謝祭(11月第4木曜日。No.29参照)が終わると、僕は毎日のように家族とクリスマス関係の映画を観ていました。そのことで、クリスマスを祝う気持ちが日ごとに高まっていったことを覚えています。また、家の外に目を向けると、家々や木々にはクリスマスのイルミネーションが輝き、商店や通りにもクリスマスのデコレーションが飾られていました。ラジオ局の多くはクリスマスに関する音楽を流します。そういったもののおかげで、僕にとってクリスマスは、1か月間も続くお祝いになるわけです。

12月のすべてが特別ですが、最大のお祝いはクリスマス・イブに始まります。僕の家族は毎年、夜(つまりクリスマス前夜)に教会へ行って讃美歌を歌ったり、聖書でクリスマスの物語を読んだり、ろうそくに灯をともしたりして、イエス様の誕生を祝いました。その後は、美味しい前菜やエッグノッグ(クリスマスシーズンには欠かせない特別な飲み物。牛乳ベースで優しい甘さ)や特別なご馳走が待っている我が家に帰ります。家族みんなが居間に集まり、クリスマス・ツリーの電飾をともしてクリスマスの映画を(時には大学フットボールの試合も)観ます。その後、子どもたちは部屋に戻ってベッドに入りますが、翌朝のことを想像すると、興奮してなかなか寝付けません。朝になり、再び家族で素敵なお祝いの朝食を食べ、父がもう一度聖書のクリスマスの物語を読んでから、クリスマス・プレゼントが入ったストッキングの中を見ます。家族全員がプレゼントを開け終わると、それぞれのプレゼントを分け合うのです。そうしているうちにお昼です。牛肉料理、マッシュポテト、ロールパン、かぼちゃ料理、キャセロール、アップルパイなどなど…。ご馳走を作って、クリスマスへの感謝を表すのです。



“魔法のような”という意味が分かるでしょうか？ アメリカでは、クリスマスが近づいてくると、寒さもやってきますが、「1年で最も素晴らしい時季」も迎えるのです。日本のお正月の行事に似ているかもしれませんね。